

2019年8月6日

参議院議員会館における報告会

国際歴史論戦研究所 (iRICH)

所長 山下英次

国際歴史論戦研究所 (iRICH) の活動報告

活動目標

- ① 対国連活動・・・意見書提出、スピーチなど
 - ・国連人権理事会 (UNHRC) 定例会合・・・毎年、年3回
；2月～3月 (ハイレヴェル・セグメントを含む4週間)、6月 (3週間)、9月 (3週間)
 - ・国連人権理事会 UPR (普遍的・定期的レビュー)；全国連加盟国が審査対象
 - ・各種人権条約に基づく国連委員会 (Committee)；日本の参加は8つの委員会
－自由権規約委員会 (CCPR)、社会権規約委員会 (CESCR)、人種差別撤廃委員会 (CERD)、女子差別撤廃委員会 (CEDAW)、拷問禁止委員会 (CAT)、児童の権利委員会 (CRC)、強制失踪委員会 (CED)、障害者権利委員会 (CRPD)
 - ・その他の委員会 (Commission)
；女性の地位委員会 (CSW) = 毎年3月の第2週～第3週の2週間 (NY)
- ② 日本を貶めるような海外からの批判に反論
 - ・「不当な日本批判を正す学者の会」(AACGCJ) との連携
- ③ GHQ 史観を覆すような主張を、国際学会、国際機関などで積極的に行う
究極的には、世界史を日本人の観点から書き換えるところまで行くべし
 - ・2018年8月、国連人種差別撤廃委員会 (CERD) におけるスピーチ
 - ・2018年12月、イスラエル日本学会 (IAJS) 国際シンポジウムにおける報告

言論の自由に関する国連特別報告者デイヴィッド・ケイへの日本の対応

- ・2016年4月、対日暫定報告書を発表；日本の言論状況を大変問題視する内容
- ・2017年5月、AACGCJによる反論・徹底批判 (46名の学者の署名)
 - ➡ 全文が、*Japan Forward* に掲載
- ・2017年6月、デイヴィッド・ケイの最終報告書 (於・UNHRC)
；AACGCJの反論で最も問題にしたケイ暫定報告の中での極端な日本批判の文言は消滅していた
；UNHRCにおける90秒の反論 by 山下
- ・2019年6月25日、デイヴィッド・ケイの日本を含めた各国レビュー (於・UNHRC)

; 日本については、2年前の是正勧告 11 項目のうち、2 項目しか履行していないという
評価

・2019 年 6 月 27 日、デイヴィッド・ケイの記者会見（於・ジュネーヴ国連）

; D. ケイ「日本政府は、合意できることがあるかどうか考えるよりも、全体的に、（私の勧告を）拒絶した」

➡ この 3 年間の日本側の対応は、大正解であった（山下）

政府 = D. ケイの主張に対しては、ほぼ取り合わなかった

民間 = 徹底的な批判 with 英文メディアの報道

➡ トンデモナイ主張に対しては、この官民の組み合わせが勝利の方程式？